

小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に関する研究（第一年次）

ーカリキュラム・マネジメント実態調査と推進方法の提案ー

福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 石井 亮一

1 研究の趣旨

新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を、子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示され、各校において育みたい資質・能力を明確にした教育課程の編成及びその実現が急務とされている。そのために、学習指導要領の枠組みの見直し、「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の実現の3つが求められている。

当チームにおいては、この「カリキュラム・マネジメント」の実現に焦点を当て、研究を進めることとした。カリキュラム・マネジメントの推進のために、県内の取組状況を把握するとともに、研究協力校において、教育活動の質的向上を図るカリキュラム・マネジメントの在り方を提案し、実践事例として発信していく。

2 研究の概要

本研究は2年計画の第一年次である。以下の研究計画に基づき、具体的なカリキュラム・マネジメントの推進方法を県内に発信していく。

(1) 県内小・中学校における「カリキュラム・マネジメントの実施状況等に関する調査」

県内全小・中学校を対象とした実施状況調査をWeb上で行い、カリキュラム・マネジメントの取組状況や職種ごとの意識の違いなど、実態を把握する。その結果を分析することで、カリキュラム・マネジメントを推進する上での課題を明らかにする。

また、見えてきた課題から、その改善のための方法を検討し、研究協力校での実践に生かす。

(2) 研究協力校におけるカリキュラム・マネジメントの推進方法の提案

小中各1校の研究協力校に対してカリキュラム・マネジメントについての校内研修の支援や、推進方法としての戦略を提案する。また、校種や実態に応じた戦略を提案していくことで、汎用性のあるカリキュラム・マネジメント推進方法を見いだす。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○ 県内全小・中学校において実施した「カリキュラム・マネジメント実施状況等に関する調査」の結果分析から、校種や職種ごとの実態を把握することができた。その実態を踏まえたカリキュラム・マネジメント推進方法を研究協力校で提案することができた。

○ 研究協力校では、教育活動の質の向上を目指すマネジメントサイクルの円滑な実施のために、「D-CAPサイクル」(PDCAのcheck、action、planを一気に行う手法)を柱としたカリキュラム・マネジメントの推進方法を小・中それぞれの協力校に合わせて提案することができた。

(2) 今後の課題

○ 実施状況等に関する調査から、管理職だけでなく、養護教諭や事務職員のような一人職の意識が高いことが読み取れた。これらの一人職の専門性や意識の高さをカリキュラム・マネジメントにどう生かしていくかを提案していく必要がある。

○ 研究協力校では、現在まで「教育課程の実施・評価・改善」と「実態の把握と共有」を行ってきた。今後は、これまでの取組を「重点目標の設定」と「教育課程の編成」につなげていく。本チームの研究の中心となるこの2つの場面に、管理職だけでなく、教職員全員で取り組み、重点目標の設定とその達成を目指した教育課程の編成ができるようにして、二年次の活動につなげていく。